

ワーク1 国語科と社会科それぞれの視点から書かれた文章を添削しよう。

○ 国語科の視点から

本文の「漂泊の思いやまず」や「心を狂わせ」などの表現から、芭蕉の旅に行きたくて仕方がない様子がわかる。おそらく芭蕉は、旅自体になんともなく憧れを持っていたため、場所はどこでも良かったのだろう。先の表現から、芭蕉の旅自体に対する強い意欲を読み取ることができる。

「おくのほそ道」の旅のテーマは、「旅への意欲を満たす」ことにあったと考える。

○ 社会科の視点から

芭蕉は、歴史ある町や、人から勧められた場所をこの目で一度見てみたい、という知的好奇心から、旅に出たと考えられる。「平泉」の歴史や訪れた場所を詳しく書いているところからも、このことが分かる。名所を訪れるたびに抱いた興奮や感動を、自分が得意とする俳句にしたためていたため、芭蕉の俳句には感動を表す「や」がよく使われている。これらのことから、「おくのほそ道」の旅のテーマは、「感動」であったと言える。

ワーク2 論理的文章作成のための視点

ワーク3 自分が書いた文章を推敲しよう。

ワーク4 本時の学習の振り返りをしよう

次の項目に対して該当する番号に○をつけよう。

- 1 よくできた(強くそう思う) 2 できた(そう思う) 3 あまりできなかった(あまり思わない) 4 できなかった(思わない)

項目				
				1
				2
				3
				4